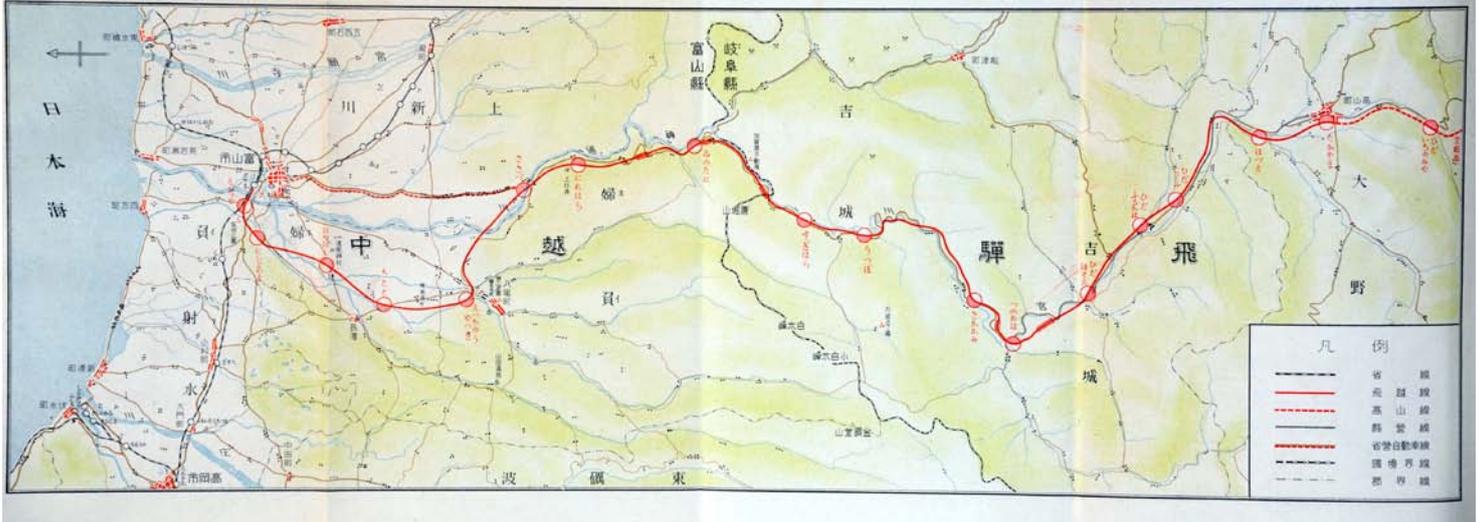


飛越線線路平面図

縮尺 十二万分之一



(第 89 図)

(57) 飛越線線路平面図 (第 89 図)

年代 昭和 9 年 10 月 25 日発行『飛越線建設要覧』添付図
発行 鐵道省長岡建設事務所
寸法 添付図の寸法 20×44.5
縮尺 20 万分の 1
所蔵 高山市教育委員会

第 89 図は『飛越線建設要覧』に折り込まれている、高山～富山間の線路平面図である。線路の平面図は 5 色刷りで高山から富山市までの「飛越線」は赤色の実線で記され、高山から岐阜までの「高山線」は点線で記される。「ささづ」から富山市へは「省営自動車線」があったことがわかる。

建設要覧本文中の「一、沿革」には次のとおり記載されている。

「飛越線は既設北陸本線富山驛に發し岐阜縣大野郡高山町に至る鐵道にして大正七年第四十一議會の協賛を得て建設さるる事に決定し敦賀建設事務所の所管に編入され大正十年四月富山、八尾間の測量に着手せり。其後大正十三年十二月二十日鐵道省告示第二五〇號を以て同事務所の廢止と共に長岡建設事務所の所管に移され昭和三年十月二十二日全線の線路選定を完了せり。

本線土工其他工事は十五ヶ工區に大別し大正十三年六月十五日富山方田苧屋より起工し昭和九年十月二十四日を以て軌道工事を竣功せしものにして測量着手以来茲に十三年九ヶ月餘の星霜を経て全通を見るに至れり。」

飛越線の工事は大正 13 年 6 月 15 日に富山方田苧屋より起工し、昭和 4 年から越中八尾、昭和 6 年から猪谷、昭和 9 年から細江でそれぞれ着工している。15 工區、諸駅間の着手、竣工期日は表 6 のとおりである (註 1)。

富山～高山間の飛越線は大正 13 年 (1924) 6 月 15 日着工から昭和 9 年 (1934) 10 月 24 日の竣工まで 10 年 4 カ月の工事期間で開通している。

最も難工事であったのは笹津から飛騨細江間で、この区間 44 キロメートルの間に隧道は 30 余、橋梁は 13 もある。地形の険峻に、工事の苦心の跡が見られる。細江から高山間は平地が続いて勾配、曲線

共に穏やかである。

註1 「『飛越線建設要覧』 鐵道省岐阜建設事務所昭和9年発行」8、9頁より

表6 主要工事起工並竣功

工事名	着手	竣功	請負者
富山驛擴張工事	昭和九年七月十八日	昭和九年十月十五日	請負及直營
第一工區土工其他新設工事	大正十三年六月十五日	大正十四年九月十四日	佐藤助九郎
第二工區土工其他新設工事	同 十四年八月一日	昭和 二年七月三十日	三ツ引商事株式会社
第三工區土工其他新設工事	昭和 二年七月廿八日	同 四年五月三日	株式会社飛島組
第四工區土工其他新設工事	同 三年四月一日	同 五年五月十八日	加藤金次郎
第五工區土工其他新設工事	同 三年二月一日	同 五年六月廿日	株式会社飛島組
第六工區土工其他新設工事	同 三年十二月一日	同 六年五月十五日	佐藤助九郎
第七工區土工其他新設工事	同 四年一月廿五日	同 六年五月十八日	同
第八工區土工其他新設工事	同 四年七月二十日	同 六年六月十三日	同
第九工區土工其他新設工事	同 六年八月一日	同 八年三月廿二日	同
第十工區土工其他新設工事	昭和 六年八月一日	同 八年三月廿二日	加藤金次郎
第十一工區土工其他新設工事	同 七年一月二十日	同 八年九月廿五日	同
第十二工區土工其他新設工事	同 七年一月十五日	同 八年十一月廿二日	株式会社飛島組
第十三工區土工其他新設工事	同 七年一月二十日	同 八年十月廿五日	佐藤助九郎
第十四工區土工其他新設工事	同 七年九月廿五日	同 八年十二月十五日	加藤金次郎
第十五工區土工其他新設工事	同 七年十二月一日	同 八年十二月十七日	同
田沼屋連間軌道敷設並鋼桁架設其他工事	大正十五年一月廿一日	同 二年八月卅一日	直營
速星越中八尾間 同	同 十五年十二月一日	同 二年八月卅一日	同
越中八尾笹津間 同	昭和 四年四月一日	同 四年九月十九日	同
笹津 猪谷 間 同	同 五年四月一日	同 五年十一月廿六日	同
猪谷 杉原 間 同	同 六年四月十一日	同 七年八月十九日	同

工事名	着手	竣功	請負者
杉原 打保 間 同	同 七年九月十六日	同 八年十月三十日	同
打保 巢ノ内 間 同	同 八年四月一日	同 八年十月三十日	同
巢ノ内 坂上 間 同	同 八年八月一日	同 八年十一月十一日	同
坂上 細江 間 同	同 八年九月廿三日	同 九年八月十日	同
細江 高山 間 同	同 九年五月一日	同 九年十月廿四日	同
猪谷 細江 間 同	同 九年八月一日	同 九年十二月廿四日	請負

(土工事は十五区間に分けられ、軌道敷設並鋼桁架設工事は駅間に分けられている)

※高山～富山間 八八・二二三 km

軌間 一・〇六七 m 最小曲線 半径二五〇 m

最急勾配 千分の二〇

(土工事は 15 区間に分けられ、軌道敷設並鋼桁架設工事は駅間に分けられている)

※高山～富山間 88.213 km

軌間 1.067m 最小半径 250m 最急勾配 1000 分の 20

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。